資料７

「子どもの徳育」等に関する論点・課題について【 第１～５回会議における委員意見等から 】

社　会　環　境

【社会が抱える問題・病理】
※子どもの問題は、大人社会が抱える問題・病理の写し

【近年における社会構造・環境の変化】
＊「私事化」の進展、社会的信頼の喪失

＊メディアの影響（リアルの世界の力の喪失）
- 匿名性、姿を見せないコミュニケーション、バーチャルな世界の拡大、家族の乖離
- いじめを助長するかのような番組、最後はいつも暴力で解決するパターン化した番組プロット

※　子どもにとってのメディアと、大人にとってのそれとでは、持つ意味が異なる

＊経済環境等の変化
- 厳しい経済状況の中で子育てをしている親の増加
- 遊興費を稼ぐための共働き、経済的には豊かな家庭における価値観の変化
- 様々な面での二極化
- ライフスタイル上のモデル（例えば、進学→就職→結婚）喪失からくる、個人のアイデンティティ形成の困難

留 意 点

＊　現代の子どもには、今の時代に適応し、その先を行くようなプラスの特性（※）もあるはずであり、そのことも踏まえた議論が必要ではないか。

※ 例えば、ユーモアのセンス、即興的表現の上手さなど

子どもの発達特性・発達課題

【乳幼児期】
＊愛着の形成
＊「心の理解」の萌芽、道徳性の芽生え

【学童期】
＊具体的思考から抽象的思考への適応、「心の理解」の発達　　（⇔９歳の壁）
＊身体的･知的発達に伴う有能感　（⇔劣等感）、旺盛な好奇心
＊道徳的他律から自律への移行

【青年前期】
＊自己への関心、自我の解体と再編成
＊親からの自立

【青年中期】
＊自我同一性の確立、自己の生き方の方向付け

留 意 点

＊　発達の基本形だけで徳育の問題を考えていると、発達の遅れた子どもにどう社会性を身に付けさせるかという視点が見落とされるおそれはないか。

徳育・子育て等の在り方

教え・身に付けさせるべき内容・方法

○ 何を、教え・身に付けさせるか（内容）

徳育固有の領域
・論理的･合理的には説明できない領域、禁止形(~するな)･命令形(~せよ)で言い表される領域

＊自らを律すること（精神の鍛錬）
＊教えられたルールに従うこと（親を尊敬し、目上の人の言うことに耳を傾けること）
＊規範の意識（してはならないこと･してよいこと･しなければならないことの認識）
＊ルール以前の「してはならないこと」、善悪に対する知識と感性、人としての基本的なモラル
→「徳」の主体化・社会化（気がついたらそういう行動に出ていて、それが人間としての 規範、社会の価値・秩序にも合致しているようになること）
「なぜしてはいけないのか」を感じる感覚

＊生活習慣・社会習慣
＊うまく生きること

＊相手を思いやれる想像力、他者と共感できる力
＊相手との関係を調整していく力、コミュニケーション能力

＊情報倫理、メディアとの接し方・使い方についての新しい常識
＊マナー・公徳心

＊社会的存在としての自己認識（ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ）、市民性､共同性･公共性への志向、社会的信頼

※タテの社会化とヨコの社会化
コアとなる規範・道徳と相対化し得る規範・道徳

○ どうやって、教え・身に付けさせるか（方法）

徳育の基盤
・教える大人（教師･親）と子どもとの関係そのものが「道徳的関係」であること

《どの時期に・どの順序で》
《参考》 乳幼児精神保健等の知見（赤ちゃんの生まれ持つ力等）
発達心理学の知見（道徳性の発達、心の理解、自立のプロセス等）

《どのような手法で》
＊「ことば」を活用した心の教育（「ことばで育つ豊かな心、心を傷つける分別のないことば」）
＊　発達段階に応じたことばの教育

＊子どもの良い面を伸ばす道徳教育

＊子ども同士が生でぶつかり合う体験を通したコミュニケーションスキルの育成
＊子どもたちが、自らルールをつくり、それを守る取組

《どのような教材を使って》
＊絵本を読む活動、名作・名文に触れる（を聞く）活動

※規範・道徳の内面化における「守・破・離」のプロセス

家庭･学校･地域等の役割分担

○ 誰が、何をするか

～　公教育と私教育の役割の相違も踏まえ

＊ 家 庭
・乳幼児期の子どもに子守歌を歌ってやる
・「家訓」を作る
・親子の共通体験を重ねる
※「親に対するしつけ」は、どうするのか

＊ 学 校
・学習習慣を身に付けさせる
・ 生徒指導、学級活動等を通じた指導を行う
・部活動を通じ、授業では吸収できない子どもたちの「伸びたい気持ち」を吸収する
・社会で生きている大人たちとの接触の機会を与える（例えば、学校敷地内に公民館を設置して交流を促進）

＊ 地 域
・「親になるための学習」講座等の機会を提供する
・ 地域ボランティ活動の世界を子どものライフスタイルの中に切り開き・定着させる。

＊ その他（福祉、企業、警察、…）

＋ 連携して取り組むべきこと
※ これまで学校に多くを求めてきたが､それだけでは限界
→　一人一人の子どもの適切な理解とサポート
※　とりわけ、家庭状況に困難を抱える子どもへの支援

留 意 点

＊「宗教（戒律）を持たない」我が国において、価値や規範・規律の根拠を何に求め、それらをどう教えていくのか。
※　芸術、宗教、スポーツ、文化を、科学技術、社会科学と並ぶ教育の主軸の１つとして改めて位置付けし直すべきではないか。
※ 宗教は、それ自体固有の世界を持つものであり、これを徳育に利用するという扱い方には抵抗を感じる人もいるのではないか。

＊　大人の規範としての善悪を早いうちから子どもにたたき込み、大人のルールを守らせること、子どものやるべきことを大人が決めてしまうことによって、結果として子どもの情動を殺し、子どもの「生きること」を奪っているのではないか。